

エビデンスレベルの高い研究計画策定のために！

2024 年度 一般社団法人日本生活支援工学会 研究デザイン講座  
『福祉用具実証試験の研究デザイン』  
— 福祉用具のエビデンス

主催：一般社団法人日本生活支援工学会  
後援：公益財団法人テクノエイド協会  
後援：一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会（JASPA）  
日時：2024 年 10 月 19 日（土）13:30～17:00  
開催形態：Zoom による Web 会議  
講師：山内 繁（一般社団法人日本生活支援工学会倫理審査委員会 委員長）  
元 国立身体障害者リハビリテーションセンター 研究所長  
元 早稲田大学 人を対象とする研究に関する倫理委員会 委員長  
「エンジニアのための 人を対象とする研究計画入門（丸善出版）」著者  
定員：30 名（事前申込制：申し込み締め切りは 2024 年 10 月 12 日）  
申込先：日本生活支援工学会福祉用具のエビデンスに関する検討作業委員会  
研究デザイン WG [wsat@jswsat.org](mailto:wsat@jswsat.org)（※アドレスは@を半角に変更してください）  
（件名を「研究デザイン講座申込」として下さい）  
参加費：（一般）3,000 円、（日本生活支援工学会会員、賛助会員）1,000 円  
（賛助会員は 1 社 3 名迄）

「福祉用具のエビデンス」が問題になってきました。このことは、1990 年代にカナダで始まった EBM (Evidence Based Medicine：根拠に基づいた医療) の福祉用具への波及効果と考えられます。アメリカでは 2005 年くらいから福祉用具の世界でも EBM が一般的になってきました。介護保険福祉用具貸与の新規品目の申請にもエビデンスデータが求められるようになってきました。EBM の立場から妥当性のあるエビデンスを得るためにはしっかりした研究デザインに基づかなければなりません。

一般社団法人日本生活支援工学会では、2010 年に倫理審査委員会を設置し、企業で開発された支援機器の実証試験のための倫理審査を行ってきました。倫理審査では、研究計画の「倫理的妥当性」および「科学的合理性」が求められます。これらの経験に基づき、科学的合理性のための「エビデンスの高い研究デザイン」および「易しい統計学的データ処理」に関する講座を計画しました。

• 主な項目

- 実証試験のための研究デザインと PICO、アウトカムとエンドポイント
- 対応する統計モデルと統計学的仮説検証
- 統計パッケージ EZR の利用によるサンプルサイズの設定と測定データの処理
- サンプルサイズが増やしにくい場合の対策と、パワーの計算による妥当性の検討

内容等問い合わせ先：

[Res.Design@jswsat.org](mailto:Res.Design@jswsat.org) 日本生活支援工学会研究デザイン WG

※アドレスは@を半角に変更し、件名に、「研究デザイン講座問い合わせ」と記載してお送りください。申し込みは上記事務局までお願いします。

Zoom の URL、参加費払い込みについては事務局から連絡します。

関連 Web ページ：

日本生活支援工学会 倫理審査受託事業 <http://www.jswsat.org/IRB.html>

